

「第10回日本人学生の『アジア体験』コンテスト to Vietnam」入賞者が神戸新聞に紹介されました

＜神戸新聞＞

2010年1月23日（土）掲載記事

（第3種郵便物認可）

神戸新聞

アジアのパワー伝えたい

ベトナム 100人の夢

甲南大生の木下さん

現地に渡り聞き取り調査

なぜ、日本人は覇気がないのか。そんな戸惑いから、甲南大学（神戸市）文学部4年の木下祐梨さん（23）が昨年12月末、ベトナムでユニークな調査をした。ベトナム人・ベトナムで働く日本人100人の「夢」調査。現地ではインタビューをし、経済的に恵まれていなくても、明確に夢を語る若者に出会った。木下さんは「アジアのパワーを伝え、日本を元気にしたい」と話す。（中島摩子）

神戸 木下さんは、東京都出身。高深めたという。

校時代に父を病気で亡くし、帰国後、最も気になったのは、経済不況や就職難で、経営コンサルティング会社で就職が決まり、春からはベトナム・ホーチミン勤務。調査結果を今後の仕事に生かしたいという。

あしなが育英会で世界各地の災害遺児、エイズ遺児向けの募金活動などに取り組む、海外への関心を深めた。2008年から1年間、大学を休学し、同育英会を通してベトナムの日本語学校で研修をした。語学を教えたり、日本文化を伝えたり、日本文化を伝える

共立国際交流奨学財団（東京都）の「アジア体験コンテスト」に応募。優秀な企画と認められ、昨年12月18～31日、ベトナムに滞在した。

学生や子ども、市場内の店主、日系企業で働くベトナム人などにインタビュー。医者や通訳者になりた

いという夢のほか、「日本で環境について学びたい」「ベトナムを経済発展させたい」などの答えが返ってきた。

今後、調査結果を分析し、レポートにまとめる。同財団に提出するほか、神戸のあしなが育英会の集まりで



「ベトナム人には『何かをやってやる』というくましさがあった」と話す木下祐梨さん（神戸市東灘区、甲南大学）